



株主のみなさまへ

第109期 中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設

株主のみなさまへ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第109期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）上半期の、
当社グループの業績及び活動の概況についてご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともなにとぞ相変わりがせぬ
ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

取締役会長

野村哲也

取締役社長

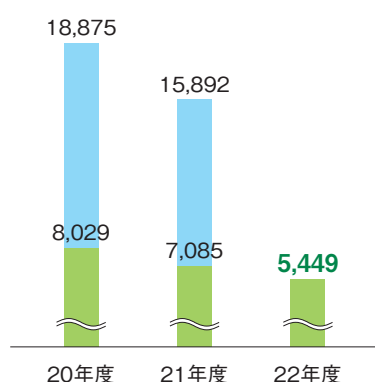
宮本洋一

決算ハイライト

連結売上高

5,449億円

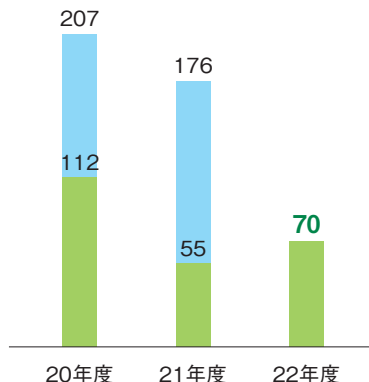
前年同期比 $\triangle 23.1\%$



連結経常利益

70億円

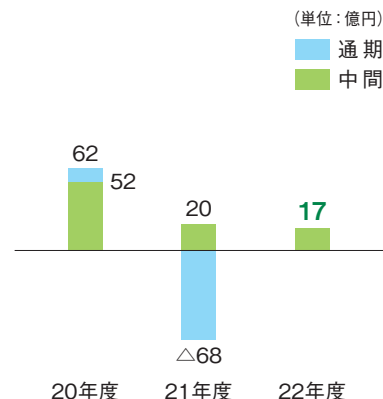
前年同期比 $+26.6\%$



連結当期純利益

17億円

前年同期比 $\triangle 13.8\%$



(単位: 億円)
■ 通期
■ 中間

当上半期の日本経済は、円高の進行や世界経済の減速等から、依然として厳しい局面が続きました。

建設業界においては、住宅・不動産市場の持ち直しの動きが鈍く、設備投資も落ち込みが続く中、官公庁工事も大幅に減少し、業界全体の受注高は、前年同期を下回る水準で推移しました。こうした市場の縮小により、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のもと、当上半期の売上高は、完成工事高が大幅に減少したことにより、前年同期に比べ23.1%

減少し5,449億円となりました。

利益については、工事採算は改善したものの、完成工事高の減少により完成工事総利益は減少しましたが、開発事業等総利益の増加などにより、経常利益は前年同期に比べ26.6%増加し70億円となり、当上半期の純利益は17億円となりました。

また、中間配当金は、1株につき3円50銭といたしました。

なお、連結有利子負債の残高は、前期末に比べ686億円減少し3,743億円となりました。

事業の概況 (連結及び単体)

連 結

当上半期の事業別連結業績

売上高	5,449億円	前年同期比 △ 23.1%
うち 建設事業	4,988億円	△ 26.0%
開発事業等	460億円	+ 32.7%
売上総利益	409億円	前年同期比 + 4.7%
うち 建設事業	369億円	△ 4.3%
開発事業等	40億円	+713.0%
有利子負債残高	3,743億円	22年3月末比 △686億円

通期の連結業績見通し

売上高	1兆3,200億円	前期比 △16.9%
経常利益	200億円	+13.5%
当期純利益	100億円	—
有利子負債残高	4,000億円以内	22年3月末比 △429億円

■建設事業

売上高は、前年同期に比べ26.0%減少し4,988億円となりました。
利益については、工事採算は改善したものの、売上高が大幅に減少したことなどから、前年同期に比べ4.3%減少し369億円となりました。

主要な連結子会社

(株)東京鐵骨橋梁 片山ストラテック(株) 第一設備工業(株)
(株)シミズ・ビルライフケア シミズ・ノースアメリカLLC
清水建設(中国)有限公司

■開発事業等

売上高は、前年同期に比べ113億円増加し460億円となりました。
利益については、前年同期にたな卸不動産の評価損を計上したこと
の反動などから、前年同期に比べ35億円増加し40億円となりました。

主要な連結子会社

清水総合開発(株) (株)ミルックス (株)エスシー・マシーナリ シミズ・ファイナンス(株)
多摩医療PFI(株) シミズ・インターナショナル・ファイナンス(U.S.A.)社

■通期の業績見通し

下半期の経済環境は、内外の景気対策効果の息切れや円高の進行、株価の低迷等が懸念され、依然として厳しい局面が続くものと思われます。

建設業界においても、極めて低水準であった前期との比較では、住宅・不動産投資、企業設備投資の持ち直しが期待されるものの、公共投資はさらなる減少が見込まれ、引き続き厳しい経営環境が予想されます。

このような状況のもと、平成22年度通期の連結業績は、売上高1兆3,200億円(前期比△16.9%)、経常利益200億円(前期比+13.5%)、当期純利益100億円(前期 純損失68億円)を見込んでおります。

また、連結有利子負債の残高は、4,000億円以内を見込んでおります。

単 体

当上半期の当社単体の業績

受注(契約)高	4,714億円	前年同期比 △ 4.3%
売 上 高	4,801億円	△27.8%
経常利益	71億円	+46.8%
当期純利益	39億円	+83.2%
有利子負債残高	2,859億円	22年3月末比 △861億円

通期の当社単体の業績見通し

売 上 高	1兆 1,600億円	前年同期比 △17.8%
経常利益	160億円	+22.6%
当期純利益	85億円	—
有利子負債残高	3,100億円以内	22年3月末比 △620億円

■受注(契約)高

当社単体の受注(契約)高は、前年同期に比べ4.3%減少し4,714億円となりました。その内訳は、建設事業97%、附帯事業3%です。

建設事業受注高は、土木工事が減少したことなどから、前年同期に比べ5.7%減少し4,569億円となりました。

また、附帯事業の契約高は、前年同期に比べ62億円増加し144億円となりました。

■売上高

売上高については、前年同期に比べ27.8%減少し4,801億円となりました。その内訳は、建設事業97%、附帯事業3%です。

完成工事高は、建築工事が大幅に減少したことから、前年同期に比べ28.8%減少し4,658億円となりました。

また、附帯事業売上高は、前年同期に比べ40億円増加し143億円となりました。

■利 益

利益については、投資開発事業において前年同期に販売用不動産の評価損を計上したことの反動や、販売費及び一般管理費の削減などから、経常利益は前年同期に比べ46.8%増加し71億円となり、当上半期の純利益は39億円となりました。

なお、有利子負債の残高は、前期末に比べ861億円減少し2,859億円となりました。

受注工事の主なもの

建築 工事	KSビルキャピタル特定目的会社 株式会社歌舞伎座	(仮称) KS計画新築工事
	京橋開発特定目的会社 第一生命保険株式会社 片倉工業株式会社 清水地所株式会社	(仮称) 京橋3-1プロジェクト新築工事
	京橋三丁目特定目的会社 ジェイアンドエス保険サービス株式会社	
	株式会社東芝 イオンモール株式会社	四日市工場250棟1期建築工事 (仮称) イオンモール甲府昭和町SC新築工事
土木 工事	西日本旅客鉄道株式会社	おおさか東線鳴野地区高架橋新設他工事

完成工事の主なもの

建築 工事	東京急行電鉄株式会社	東急キャピトルタワー新築工事
	アレキサンドラ ディストリパーク社	メープルツリー・ビジネス・シティ新築工事 (シンガポール)
	トヨタ紡織株式会社	猿投開発センター2号館新築工事
土木 工事	国土交通省	東京国際空港D滑走路建設外工事
	ドバイ首長国	ドバイインターチェンジNo.8建設工事

経営方針と重点施策

シミズグループは、この度、10年後のあるべき姿として、長期ビジョン『Smart Vision 2010』を策定しました。

長期ビジョン『Smart Vision 2010』

目指すべき企業の姿は「スマートソリューション・カンパニー」

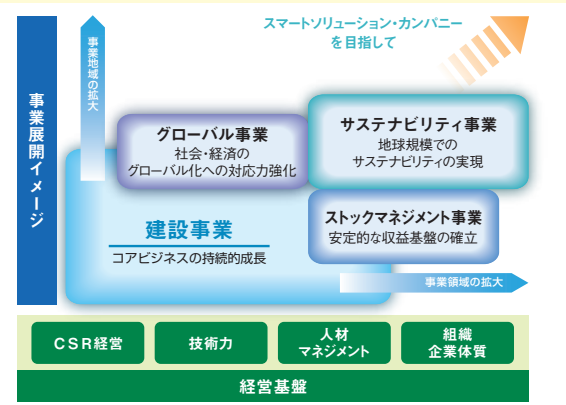
人々が快適で安心して暮らせる環境づくりのトップランナーとして、社会とともに成長を続ける、そんな企業でありたい。

わたしたち、シミズグループは、建設事業を核として、社会と建造物の持続可能性（サステナビリティ）を徹底的に追求し、お客様の期待を超える価値を提供し続ける『スマートソリューション・カンパニー』を目指します。

【スマートソリューション・カンパニーとは】

「請負のみにこだわらず、建設事業を核とした周辺の事業領域において、有望ビジネス、有望エリアへの積極的な事業参画・投資・マネジメント等を通じ、あらゆる段階で最大限の付加価値とソリューションを提供する企業（グループ）」を意味する当社の造語です。

スマート（smart）とは「洗練された」、「頭の良い」、「時代を先取りした」、「叡智を結集した」という意味で使用しています。



基本方針

— 持続的成長とさらなる進化へ向けて —

事業強化方針

- 建設事業競争力の革新的強化により国内市場縮小に打ち克ち、シェア拡大により成長を持続
- 次代の収益の柱の構築に向けた、3つの重点注力分野における事業基盤の確立
- すべての事業活動の機軸を「環境」に置き、シナジー効果の追求によるグループ経営のパワーアップ

基盤強化方針

- 景気変動の影響を最小限に抑えながら、環境変化に柔軟に対応し、持続的な成長を可能にする経営体質づくり
- グローバル展開、ストックマネジメントなど、事業の多様化に適した経営システムの確立

事業強化方針

持続的成長につながる事業を
確立・展開する

建設事業強化方針

「選ばれ続けるベストパートナー」シミズ

- お客様満足を徹底的に追求し、高度な技術力とサービス水準の維持・向上に努め、建設にかかわる総合的で最適なソリューションを提供する
- 建設と環境ソリューションのベストミックスにより、グリーンコントラクターとしてトップランナーの地位を築く

ストックマネジメント事業強化方針

建設事業に次ぐ第二の事業の柱

- 独自の「アフターサービス」モデルを確立し、建造物の生涯にわたる運営・維持管理事業を強化・拡充する
- 多角的な不動産ビジネスをはじめ、ストックマネジメント分野での事業拡大を図り、安定的な収益基盤を構築する

グローバル事業強化方針

グローバルに戦える競争力の保持

- 新興国を中心としたインフラ整備・開発と経済成長に貢献する
- ハード・ソフト両面でお客様に的確にサポートし、グローバルに信頼されるシミズ・ブランドを確立する

サステナビリティ事業強化方針

環境分野における業界のトップランナー

- 先進的な次世代「環境・エネルギーマネジメント事業」を確立し、低炭素社会実現に貢献する
- 原子力エンジニアリングのグローバルプレーヤーを目指す

「環境」を機軸とした、4つの事業のシナジー効果の追求によるグループ経営のパワーアップ

基盤強化方針

クリーンな企業イメージと、
チャレンジ精神を育む

CSR経営方針

「誠実で社会から信頼される」シミズ

- 社会環境の変化・期待に対して自ら行動し、社会やお客様の期待を超える価値を実現する
- 会社・作業所・従業員、あらゆるレベルで社会貢献活動に積極的に取り組み、常に、社会から信頼される会社であり続ける

技術力強化方針

「技術でソリューションを提供する」シミズ

- 建設事業の一層の強化に向けた、生産革新と次世代構築環境※の戦略的な技術開発を行う
※構築環境 (Built Environment)：自然、人間活動と建築空間で構成される空間
- サステナビリティ分野の強化に向けて、革新的な環境・エネルギー技術の開発と事業化を進める

人材マネジメント方針

「ひとが活き活きとした」シミズ

- ものづくりを核とする、技術や企業文化の着実な伝承により、信頼されるプロ集団を形成する
- 多様な価値観や人格、個性を尊重する企業風土づくりにより、従業員の活力のさらなる向上を図る

組織・体質強化方針

「明るく活気に溢れ、チャレンジ精神の旺盛な」シミズ

- 一人ひとりの能力を最大限に活かし、チャレンジを促進する企業風土を醸成する
- お客様志向の、シンプルでわかりやすい組織を実現する
- リスク管理を徹底し、チャレンジを支える健全な財務体質を維持する

連結財務諸表

連結貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	9,446	10,984	△ 1,537
現金預金	1,162	1,826	△ 663
受取手形・完成工事未収入金等	3,347	4,261	△ 913
有価証券	410	360	50
未成工事支出金	2,397	2,472	△ 74
たな卸不動産	714	684	29
PFI事業等たな卸資産	459	426	32
その他	975	971	4
貸倒引当金	△ 20	△ 18	△ 2
固定資産	4,612	4,680	△ 67
有形固定資産	2,161	2,163	△ 2
無形固定資産	40	42	△ 1
投資その他の資産	2,410	2,474	△ 63
投資有価証券	2,181	2,342	△ 160
その他	337	243	93
貸倒引当金	△ 75	△ 79	3
投資損失引当金	△ 32	△ 32	-
資産合計	14,059	15,665	△ 1,605

（資産の部）
現金預金や受取手形・完成工事未収入金等などの減少により、資産合計は、1兆4,059億円となり、前期末に比べ1,605億円減少しました。

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	8,059	9,561	△ 1,502
支払手形・工事未払金等	2,859	3,498	△ 638
短期借入金	1,750	1,859	△ 109
1年内返済予定の プロジェクトファイナンス借入金	30	27	3
1年内償還予定の社債	-	600	△ 600
未成工事受入金	2,322	2,251	71
完成工事補償引当金	24	30	△ 5
工事損失引当金	292	323	△ 30
その他	779	970	△ 191
固定負債	3,056	2,991	65
社債	400	400	-
長期借入金	1,233	1,256	△ 22
プロジェクトファイナンス借入金	328	285	43
退職給付引当金	554	555	△ 0
関連事業損失引当金	27	29	△ 1
その他	511	465	46
負債合計	11,116	12,553	△ 1,437
（純資産の部）			
株主資本	2,447	2,458	△ 10
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	△ 0
利益剰余金	1,289	1,298	△ 9
自己株式	△ 16	△ 15	△ 1
評価・換算差額等	425	578	△ 153
少数株主持分	70	74	△ 4
純資産合計	2,943	3,112	△ 168
負債純資産合計	14,059	15,665	△ 1,605
1株当たり純資産額	366.20円	386.96円	

（負債の部）
支払手形・工事未払金等の減少や1年内償還予定の社債の償還などにより、負債合計は、1兆1,116億円となり、前期末に比べ1,437億円減少しました。

（純資産の部）
株式相場下落に伴う評価・換算差額等の減少などにより、純資産合計は、2,943億円となり、前期末に比べ168億円減少しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	
売上高	5,449	7,085	△ 23.1%
完成工事高	4,988	6,738	△ 26.0%
開発事業等売上高	460	347	32.7%
売上原価	5,039	6,694	
完成工事原価	4,619	6,351	
開発事業等売上原価	420	342	
売上総利益	409	391	4.7%
完成工事総利益	369	386	△ 4.3%
開発事業等総利益	40	4	713.0%
販売費及び一般管理費	323	340	
営業利益	86	51	69.5%
営業外収益	39	47	
営業外費用	56	43	
経常利益	70	55	26.6%
特別利益	9	5	
特別損失	21	10	
税金等調整前当期純利益	58	50	15.9%
法人税等	44	33	
少数株主損益調整前当期純利益	14	17	
少数株主損失(△)	△ 3	△ 3	
当期純利益	17	20	△ 13.8%
1株当たり当期純利益	2.25円	2.61円	

売上高は、完成工事高が大幅に減少したことにより、前年同期に比べ23.1%減少し、5,449億円となりました。

売上総利益は、完成工事総利益は減少しましたが、開発事業等総利益が増加したことにより、前年同期に比べ4.7%増加し、409億円となりました。

経常利益は70億円、特別損益や法人税等を加減した当期純利益は17億円となりました。

なお、特別損失には、連結子会社における減損損失15億円などを計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	増 減
	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	
現金及び現金同等物の期首残高	2,186	2,282	△ 96
営業活動によるキャッシュ・フロー	196	210	△ 14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 89	△ 111	21
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 712	△ 95	△ 617
その他の増減額	△ 7	11	△ 18
現金及び現金同等物の増減額	△ 613	14	△ 628
現金及び現金同等物の上半期末残高	1,572	2,297	△ 724

営業活動によるキャッシュ・フローは、完成工事未収入金の回収が進んだ結果、196億円の資金増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、当社における本社新社屋の建設費の支出などにより、89億円の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還や長期借入金の返済などにより、712億円の資金減少となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当上半期末の残高は、前期末に比べ613億円減少し、1,572億円となりました。

単体財務諸表

貸借対照表（要旨）

科 目	当上半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在	増 減
（資産の部）			
流動資産	8,023	9,404	△ 1,380
現金預金	1,021	1,619	△ 597
受取手形	71	158	△ 86
完成工事未収入金	2,988	3,735	△ 746
有価証券	410	360	50
販売用不動産	395	330	64
未成工事支出金	2,285	2,353	△ 67
その他	869	863	5
貸倒引当金	△ 18	△ 16	△ 2
固定資産	4,107	4,209	△ 101
有形固定資産	1,524	1,502	21
無形固定資産	31	33	△ 1
投資その他の資産	2,552	2,673	△ 121
投資有価証券	2,010	2,166	△ 155
その他	650	620	30
貸倒引当金	△ 76	△ 80	3
投資損失引当金	△ 32	△ 32	-
資産合計	12,131	13,614	△ 1,482

（単位：億円）

科 目	当上半期末 平成22年9月30日現在	前期末 平成22年3月31日現在	増 減
（負債の部）			
流動負債	7,318	8,656	△ 1,337
支払手形	104	169	△ 64
工事未払金	2,387	2,832	△ 445
短期借入金	1,286	1,489	△ 203
1年内償還予定の社債	-	600	△ 600
未成工事受入金	2,202	2,150	51
完成工事補償引当金	21	27	△ 5
工事損失引当金	279	309	△ 30
その他	1,036	1,076	△ 39
固定負債	2,496	2,505	△ 8
社債	400	400	-
長期借入金	1,173	1,231	△ 58
退職給付引当金	509	510	△ 0
関連事業損失引当金	24	32	△ 7
その他	389	331	58
負債合計	9,815	11,162	△ 1,346
（純資産の部）			
株主資本	1,851	1,840	11
資本金	743	743	-
資本剰余金	431	431	△ 0
利益剰余金	688	676	12
自己株式	△ 12	△ 11	△ 1
評価・換算差額等	464	611	△ 147
純資産合計	2,316	2,452	△ 135
負債純資産合計	12,131	13,614	△ 1,482
1株当たり純資産額	294.73円	311.87円	

備考：金額の億円未満は、切捨て表示しております。

損益計算書（要旨）

（単位：億円）

科 目	当上半期	前年同期	前年同期比
	平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	
売上高	4,801	6,647	△ 27.8%
完成工事高	4,658	6,543	△ 28.8%
附帯事業売上高	143	103	39.1%
売上原価	4,462	6,328	
完成工事原価	4,333	6,213	
附帯事業売上原価	129	115	
売上総利益	338	318	6.3%
完成工事総利益	324	330	△ 1.7%
附帯事業総利益	13	△ 11	-
販売費及び一般管理費	261	278	
営業利益	77	40	91.9%
営業外収益	41	45	
営業外費用	47	37	
経常利益	71	48	46.8%
特別利益	9	5	
特別損失	5	10	
税引前当期純利益	75	43	72.4%
法人税等	35	21	
当期純利益	39	21	83.2%
1株当たり当期純利益	5.08円	2.77円	

■中間配当について

1. 株主に対する配当財産の割当てに関する事項及びその総額
 当社普通株式1株につき 金3円50銭 総額2,750百万円
2. 剰余金の配当が効力を生じる日
 平成22年12月2日

受注（契約）高・売上高・繰越高の内訳

（単位：億円）

区 分	前期繰越高	当上半期 受注（契約）高	当上半期 売上高	次期繰越高
建設事業				
建 築	7,833	4,027	3,537	8,323
土 木	3,976	542	1,120	3,398
計	11,810	4,569	4,658	11,722
附帯事業	259	144	143	260
合 計	12,069	4,714	4,801	11,982

建設事業受注高の内訳

（単位：億円）

区 分	当上半期 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	前年同期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	増 減
建 築			
国 内	3,821	3,649	171
海 外	205	150	55
計	4,027	3,800	226
土 木			
国 内	526	881	△ 354
海 外	15	163	△ 147
計	542	1,044	△ 502
合 計			
国 内	4,348	4,531	△ 183
海 外	221	314	△ 92
計	4,569	4,845	△ 275

トピックス

2010年10月に供用開始

羽田D滑走路, 工期短縮と効率化を徹底し, 無事完成

羽田D滑走路は, 羽田空港の年間発着能力を30.3万回から44.7万回に増強するために建設される, 長さ2,500mの4本目の滑走路です。その建設工事は2年間の実施設計, 準備期間の後, 2007年3月に着工, 41か月後の2010年8月に竣工しました。

当社は棧橋Ⅰ工区と埋立Ⅱ工区を担当

今回の工事は, 現空港の沖に, 1,100mの棧橋部と2,020mの埋立部からなる滑走路及び関連施設などを建設するものです。工事にあたり, 当社は15社で構成するJV(鹿島・あおみ・大林・五洋・清水・新日鉄エンジ・JFEエンジ・大成・東亜・東洋・西松・前田・三菱重工・みらい・若築異工種建設工事共同企業体)の一員として, 棧橋Ⅰ工区と埋立Ⅱ工区を担当しました。

現空港に近接してD滑走路を建設するため, 空港運用を妨げないように, 工事は昼夜間, 365日稼働。また, 大型の作業船や部材をつくる工場などを工事全体で共用したり, 基礎杭やコンクリート床版などをあらかじめ製作するプレファブ化によって, 徹底した工期短縮と作業の効率化が図られました。

長さ90mの巨大一本杭を467本打設

当社担当の棧橋Ⅰ工区では, 棧橋部全体52万㎡のうち, 20万㎡を施工しました。その最初の工事は, 大型起重機船での杭打設でした。夜間の空港運用停止時間に作業を完了しなければならないため, 千葉県の工場で長さ90mの一本杭をあらかじめ製作。さらに杭を高精度で打設するための導材台船や測量システムを新たに開発し, 棧橋Ⅰ工区では計467本(工事全体で1,165本)の打設を無事完了させました。



羽田空港とD滑走路全景。赤い枠内が当社が担当した工区。作業員や資機材の移動・運搬を海上輸送で行うため, 工事中は, 運航管理室による船の一元管理で海難事故防止が徹底された

80基の栈橋部ジャケットを据え付け

次いで行ったのがジャケット据え付け作業です。ジャケットとは、滑走路面の土台となる鋼桁と、脚部となる鋼管を組み合わせた鋼構造物。1基あたりの大きさは長さ61m、幅43m、高さ31m、重量は最大1,600tにもなります。栈橋Ⅰ工区では、このジャケットを80基（工事全体で198基）据え付けました。その後、ジャケット同士を桁材で溶接接合し、工場で製作したコンクリート床版約7,000枚（滑走路や連絡誘導路部には

厚さ340mmから380mmの床版、それ以外の場所は超高強度繊維補強コンクリートの軽量床版）を据え付け、最後にアスファルトで舗装しました。



ジャケットの据え付け作業の様子。
月に4基のペースで作業を行った



栈橋部は100年耐用とするため、チタンやステンレスの防食材や除湿システムが採用されている

埋立工事では当社開発の土工システムが活躍

埋立部の工事では、外周護岸を含め水深20mの海底から30m以上の高さまで埋立柱を搬入し、空港島が造成されました。7m以上の沈下分も合わせ、埋立柱の全体搬入量は4,900万 m^3 （東京ドーム約40杯分に相当）。このうち、当社担当の埋立Ⅱ工区では1,400万 m^3 の埋立柱を搬入しました。埋立柱の敷均しと転圧には、高精度GPSを使用した最新の土工管理システムを採用。また、締め固め効果の確認には、当社が新たに開発したIT土工システム「SFWD」が活躍しました。

これらの工事によって、世界でも例のない新たな構造で建設された羽田D滑走路。供用が開始された2010年10月21日は、日本の、そして、当社の技術力を実証開始する日になりました。



SFWDは、重錘の落下による急速載荷法により地盤面に最大90kNの衝撃荷重を作用させ、そこから得られる荷重と地盤の変位量から地盤剛性を面的に解析・評価するもの。本システムは、地盤剛性を迅速・簡便・高精度に評価するオンサイト型全自動計測システムで、これにより、地盤剛性の計測作業を大幅に合理化でき、効率的な施工と品質確保の簡便性を実現することができる。

SFWD（Super Falling Weight Deflectometer）とそのシステム概要

CSRへの取り組み

従業員の自由な発想を活かして

「stream DEW」の活動を通じて社会へ有益な情報を発信

当社では、建設という仕事を通じて得た技術や知識を社会へ還元することを目的に、従業員による自主的な取り組みを支援、推進しています。中でも「stream DEW」委員会の活動は、会社の業務範囲にとらわれない自由な発想で、社内外に向けさまざまな情報を発信しています。

きっかけは、当社の建築物を紹介する冊子づくり

「stream DEW」は、元々、当社の設計・プロポーザル本部関係の従業員の情報共有や、コミュニケーションの活性化を目的とした冊子です。その内容は、その年の当社の代表的な設計・施工作品を紹介するもので、同本部が中心となり、2007年より年1回発行してきました。

その編集作業の中で、冊子の編集だけではなく、もっと活動の幅を広げられないか、との想いが高まりました。そして2009年1月、「stream DEW」は、活動そのものが“まるごとシミズブランドの証”となることを目指した委員会組織へと発展。現在、本社と支店を合わせて約30名、20代前半から30代後半までの若手従業員が中心となり、冊子発行の他、自主的に企画を立案し、意見交換会や展示会などさまざまな活動を展開しています。



「stream DEW」委員会のメンバー



活動のきっかけとなった冊子「stream DEW」。
当社ホームページでも展開中
<http://www.shimz.co.jp/tw/dew/index.html>

仕事の枠を超えて、社会とのコミュニケーションを図る

2009年12月には、当社のブランド活動の一環として、展示会「stream DEW 2009展」をINAX: GINZA（東京・銀座）にて開催しました。同展では、当社の新本社プロジェクトや、大阪富国生命ビル、富士ゼロックス R&D スクエアといった話題の建設プロジェクトのものづくりの過程や、これまでの「stream DEW」委員会の活動を紹介。また、学生を招き、建築評論家と建築家による講演会やパネルディスカッションも行いました。

「stream DEW」ではこの他にも、竣工直後の現場を取材し、設計者を中心にどのような想いで建物がつくられたのかをドキュメンタリー映像にまとめて発表する



600名を超える来訪者があった「stream DEW 2009展」

「Document」という活動や、週1回早朝に集まりフリートークを行う「アサカツ」、ブログを活用した委員同士の情報交換、ツリーハウスやうみのいえづくりなど、仕事の枠を超えて自由な発言や発想を活かせる場をたくさん設けています。

こうした自主的な取り組みは、社内外のコミュニケーションを活発にすることはもちろん、従業員のスキルアップやモチベーションアップ、業務全体の活性化にもつながっています。



「stream DEW 2009展」での講演会の様子。
聴講していた学生から多くの質疑が出るなど、熱気あふれる会となった



手を動かしてものをつくる楽しさを味わおうと、有志で山中湖畔に制作したツリーハウス。将来的には環境との共生をテーマに活動していく予定。現在、うみのいえも設計検討中

シミズのものづくり

メーブルツリー・ビジネス・シティ

シンガポールの新たなビジネスエリアとして期待されるアレクサンドラ地区に誕生した、大規模ビジネスパーク「メーブルツリー・ビジネス・シティ」。その建設では、海外

において長年、実績と信頼を築いてきた当社の技術力で、お客様の信頼に応えました。



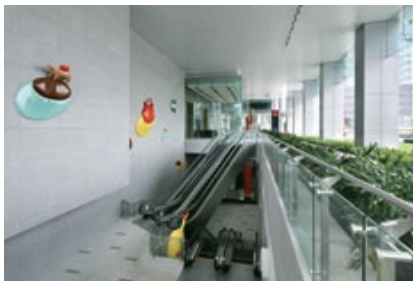
■工事概要

所在地：10/20/30 Pasir Panjang Road,
Singapore
発注者：Alexandra Distripark Pte Ltd
設計・監理：P&T CONSULTANTS
工期：2008年2月～2010年3月

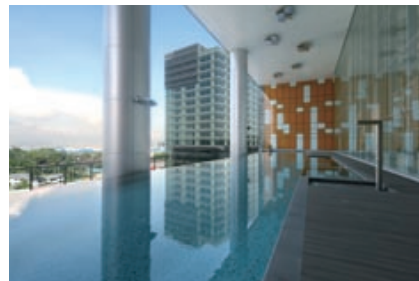
オフィス施設や多様なアメニティ施設などを一体的に整備した、メーブルツリー・ビジネス・シティ全景。全4棟（写真左手前がA棟、左奥がB棟、右がC棟とD棟で上部で連結）からなり、総延床面積は23万㎡



C棟とD棟の中間部に位置する“プラザ”2階の広場



C棟のエントランスロビーにはカラフルな装飾を配している



“プラザ”7階、吹き抜け空間の直上にはスイミングプールが設けられ、泳ぎながら絶景を望める

お客様から



メープルツリー・インベストメント
上級副社長 リー・ベック・ヤン様

当事業は、物流倉庫として利用していた当社所有地を再開発する一大プロジェクト。その成功に向けて、優れた実績でシンガポールでもよく知られている御社に施工をお願いしたのは、品質・工程に関する高い管理能力に期待してのことでした。

工事にあたっては、当社担当者や設計・監理会社と万全の協力体制を整え、予定通りに工事を進め、高品質の建物を仕上げていただいたこと大変感謝しています。御社のものづくりの技術により、最高グレードの大規模ビジネスパークが誕生したことで、この土地のポテンシャルを最大限に活かすことができました。

作業員全員の熱意で工期内の竣工を実現

今回の施工では、総延床面積23万㎡の大規模施設を、解体工事を含めてわずか26か月で施工することが求められました。この工期を実現するため、躯体工事は24時間体制。本社・生産技術本部の支援を受け、4D（3次元＋時間軸）による15分間隔の工程検討も行うなど、当社のものづくりのノウハウを注ぎ込みました。

工事中は、若手中心の日本人スタッフが現場をよくまとめてくれました。無事に工期内に竣工できたのは、彼らの熱意とそれに全力で応えた現場の作業員のおかげです。奮闘する若手の姿を通して、海外で仕事をする上で一番大切なのは“情熱”であることを再認識しました。



建設所長 藤田 仁

長年の実績による信頼感が受注の決定打に

メープルツリー・ビジネス・シティの建設は、当社の海外工事の中でも最大級のプロジェクトであり、ぜひとも受注したいと考えていました。しかし、お客様の会社には、リスク回避・低減の観点から、同時進行する工事を同一業者に発注しないという基本スタンスがあり、直前に同社の別の工事を受注していた当社は、競合相手に比べて不利な立場にありました。

最終的にそうした状況を覆せたのも、当社がシンガポールで築いてきた長年の実績があればこそ。ベストプライスを提示できたことに加え、その実績に裏打ちされた信頼感が、お客様の心を動かす決定打となりました。



営業担当 ボナベンチャー・レック

最高のチームワークで工事をやり遂げました

全4棟のうちの2棟、約10万㎡という巨大な延床面積を管轄する工区長を任されることになり、最初に話を聞いたときは武者震いが抑えられませんでした。

工程と品質の管理はもちろん、この現場ではスタッフの管理に特に注力しました。国籍もさまざまな約20名のスタッフをいかにまとめるか。そのために、まずは自分が基本に忠実に、仕事に取り組む姿勢を示すことを心がけました。結果として、この現場のチームワークは、これまでの経験の中で最高のものとなりました。海外の大規模現場を中心的な立場でやり遂げたこの経験は、今後に向け、非常に大きな自信になりました。



工事主任 森本浩司

会社概況／株式の状況

(平成22年9月30日現在)

創 業 文化元年(1804年)
資 本 金 743億円
売 上 高 1兆4,118億円(平成22年3月期)
代 表 者 取締役社長 宮本 洋一
従業員数 11,148名

■主要な営業所等

本 社 東京都港区芝浦一丁目2番3号
東 京 支 店(東京都港区) 名 古 屋 支 店(名古屋市)
横 浜 支 店(横浜市) 広 島 支 店(広島市)
千 葉 支 店(千葉市) 九 州 支 店(福岡市)
大 阪 支 店(大阪市) 土 木 東 京 支 店(東京都港区)
神 戸 支 店(神戸市) 土 木 横 浜 支 店(横浜市)
四 国 支 店(高松市) 国 際 支 店(シンガポール)
北 海 道 支 店(札幌市) 投 資 開 発 本 部(東京都港区)
東 北 支 店(仙台市) エンジニアリング事業本部(東京都港区)
北 陸 支 店(金沢市) 技 術 研 究 所(東京都江東区)
関 東 支 店(さいたま市)

■海外営業網

大 連	ハノイ	ダッカ	ブラハ
上 海	ホーチミン	バンガロール	ロンドン
広 州	バンコク	グルガオン	ニューヨーク
香 港	クアラルンプール	タシケント	アトランタ
台 北	シンガポール	ドバイ	ティファナ
マニラ	ジャカルタ	トルン	

■株式の状況

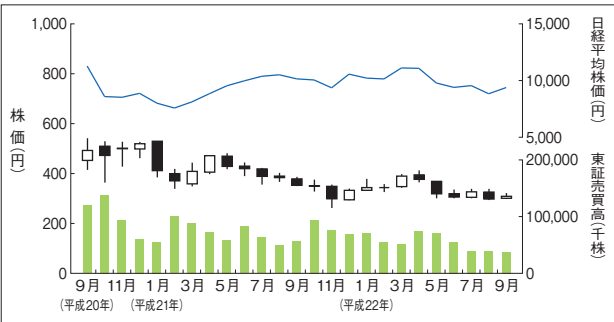
発行可能株式総数 1,500,000,000株
発行済株式の総数 788,514,613株
株主数 48,580名

■大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
清水地所株式会社	60,129	7.7
社会福祉法人 清水基金	38,100	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,801	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,690	4.3
清水建設持株会	21,451	2.7
財団法人 住宅総合研究財団	17,420	2.2
株式会社 みずほコーポレート銀行	16,197	2.1
ガバナーアンドカンパニーオブバンクオブアイルランドクライアツツ	12,065	1.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	11,737	1.5
第一生命保険株式会社	10,564	1.3

※出資比率は、自己株式(2,654千株)を控除して計算しております。

■株価及び売買高の推移



株主様へのお知らせ

株主様の日 開催のご報告

平成22年11月7日(日), 株主様を対象としたSOA(シミズ・オープン・アカデミー)体験会が開催されました。参加された株主様からは、「シミズの技術を体験し、さらにシミズファンになった」との声もいただき、風洞実験棟やピオトープなどの体験を通して、多くの株主様に、当社の技術だけでなく、建設業の社会的役割についても理解を深めていただけた様子でした。株主様を対象としたイベントは、来年度も実施していきます。

当日は、約150名の株主の皆様にご来場いただきました



株主優待制度の新設について

1. 株主優待制度新設の目的

株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、株主優待制度を通して今後とも多くの株主の皆様にご理解とご支援をいただき、中長期的に当社株式を保有していただくことを目的としております。

2. 株主優待制度の内容

(1)贈呈対象株主様

平成23年より、毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載又は記録された株主様のうち、1,000株以上ご所有の株主様を対象に実施いたします。(毎年7月下旬に発送予定)

(2)株主優待の内容

当社は、社内に「東京木工場」があり、多くの建造物において、内装・家具・調度品など良質な木製品を納めております。このような当社の特長を株主の皆様にご理解いただくとともに、木製品の一層の普及と当社の更なる価値向上を図るため、当社東京木工場製品を株主優待の贈呈品としました。

ご所有株式数	平成23年3月期の優待内容
1,000株以上5,000株未満	CUBE型キッチンフック
5,000株以上10,000株未満	CUBE型鉛筆削り
10,000株以上	ブックエンド・CUBE型写真立て



※優待贈呈品については、毎年東京木工場に関するものを新たに企画し、お送りする予定です。

ホームページのご案内



<http://www.shimz.co.jp/>

当社ホームページでは、「株主・投資家情報」をはじめ、「実績・技術ソリューション」、「CSR活動」など、さまざまな情報を掲載しております。是非、ご覧ください。

表紙写真

東急キャピトルタワー（東京都千代田区）

設計・監理／

東急設計コンサルタント・

観光企画設計社設計共同企業体

デザイナー・アーキテクト／

隈研吾建築都市設計事務所

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-232-711（フリーダイヤル）
 ウェブサイト <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

公告掲載方法 電子公告
 公告掲載URL (<http://www.shimz.co.jp/>)
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって
 電子公告による公告を行うことができない場合は、
 日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関する各種
 お手続きについて

- ☐ 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の証券会社にお問合せください。
- ☐ 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行（左記連絡先）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- ☐ 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

清水建設株式会社

〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2番3号

TEL 03-5441-1111（大代表）

<http://www.shimz.co.jp/>

